

日刊薬業

(本号12頁)
の読者増進等

発行所 株式会社 日刊薬業
〒104-8601 東京都中央区新富町2-1-1 11階2号
TEL 03(5561)8862 FAX 03(5561)7152
編集 TEL 03(5561)7750 FAX 03(5561)9410
印刷 TEL 03(5561)7600 FAX 03(5561)447751
支店 大阪府守口市富田町3-1-9 連絡TEL FAX
044-5047 TEL 06(522)7981 FAX 06(522)75484
種別刊
JAN 4510071256000/日刊薬業(月刊) 創刊号
4510 4430071 4 3 2 年 19,300円 + 3
定額 00130-6-090406 日刊薬業・日刊薬業社刊
ホームページ <http://www.jkbc.jp/>

来月、大学発のBV業界団体設立

研究者の受け皿整備で産官学連携へ期待

大学の研究者らが薬機技術やバイオテクノロジーなどの研究成果を基に創設する大学発バイオベンチャー(BV)の業界団体が誕生する。LITバイオファーマの水島裕典(みづのひろのり)代表取締役社長、元製薬局長らが中心になって準備を進めており、このほど創設案が完成。5月19日に都内で設立総会を開き、正式に発足する。団体名は大学発BV協会(仮称)。設立発起人人名簿には日刊薬業の研究者約30人が名を連ねている。

ヒトゲノムや再生医療技術の研究が進歩するなか、大学にも研究成果の技術移転や、新産業創出などによる社会貢献が求められる。そうしたなか、すでに国内では医薬品や医用工学分野で30社以上の大学発BVが設立され、注目を受けている。ただ、BVの設立、運営について、現状では疑問も多い。国民の関心が大きく、産官学の深い研究は産官学連携の形を取ることが多いが、その研究成果を基にBVを設立する際には、研究者個人と大学の権利関係、特許の権利関係、資金集め、利益配分などで課題が顕在化する。また、新たな研究推進策や規制緩和策について、これまで研究者側の要請をまとめる受け皿がなかった。また、製薬企業や、ベンチャーキャピタル、V.C.(投資家)など、産官学との連携が不十分なため、特許の取得と管理、研究開発費の調達、産業界への技術移転が必要しも同時に進んでいるとはいえない。

こうした状況を受けて、今回新たに発足する業界団体は①医学、医療関連の大学発BVの設立促進の検討、資金調達、技術移転などの情報交換②社会や国民の理解と支持が得られるような基本的な理念や基準作成③産官学や大学に対する新たな研究推進策の提言——など、産官学に活動を進めていく。事務局は東京都港区にあるLITバイオファーマ内に設置。初代会長にはは橋本代表の水島氏が就任する見通しとなっている。